



文化財愛護シンボルマーク

令和8年2月26日

文 化 財 課	
担当者	服 部 禎宣 渡 邊 恵里子
外線番号	086-226-7601
内線番号	5002・5003

### 新たに岡山県指定重要文化財等が指定されます

令和8年2月20日（金）開催の岡山県教育委員会において、岡山県文化財保護審議会（会長 江面嗣人）の答申に基づき、岡山県指定重要文化財の指定等について審議が行われ、別紙のとおり指定、認定、解除されることになりましたのでお知らせいたします。

#### 〈今後の予定〉

- ・ 県公報告示 3月中旬（告示の日付が正式な指定日になります。）
  - ・ 指定書交付 3月下旬に行う予定です。
- 詳細については、改めてお知らせします。

#### 〈問い合わせ先〉

- ・ 野崎家別邸迢暇堂：倉敷市教育委員会 TEL 086-426-3851  
公益法人 竜王会館 TEL 086-472-2001
- ・ 宮山墳丘墓出土品：岡山県教育庁文化財課 TEL 086-226-7601  
岡山県立博物館 TEL 086-272-1149
- ・ 妙教寺庭園：最上稲荷山妙教寺広報部 TEL 086-287-3708
- ・ 漆芸 塩津容子：総社市産業部文化財課 TEL 0866-92-8363
- ・ 木工芸 川野正毅：新見市教育委員会 TEL 0867-72-6148
- ・ 吉備津彦神社：吉備津彦神社 TEL 086-284-0031

指定・認定

種 別	名称・員数	所有者・所在地等	説 明
1 重要文化財 (建造物)	野崎家別邸 <sup>たい</sup> 迨 <sup>たい</sup> 暇堂 <sup>かどう</sup> 主屋 <sup>おもや</sup> ・ 蔵 <sup>くら</sup> ・居宅 <sup>きょたく</sup> ・ 有蔭亭 <sup>ゆうよてい</sup> ・清恬 <sup>せいてん</sup> ・ 車夫詰所 <sup>しゃふつめしよ</sup> ・ 車寄 <sup>くるまよせ</sup> ・中門 <sup>ちゅうもん</sup> ・ 大門門柱 <sup>だいもんもんちゅう</sup>  8棟1対	ナイカイ塩業株式会社  [倉敷市児島味野]	<b>和と洋を融合させた明治期の大規模木造建築</b>  明治大正期の日本最大の塩田地主野崎武吉郎 <sup>ぶきちろう</sup> が本宅近くの小田川沿いに建築した迎賓館的施設。広大な屋敷地上質な近代和風の建築群が立ち並ぶ。主屋は明治29(1896)年に建築され、庭園内の2つの茶室、有蔭亭と清恬は、武吉郎の還暦祝いに明治41(1908)年に建築されたと伝えられている。いずれの建物も質が高く、洗練された意匠に富み、保存状態も良好で貴重である。特に主屋は小屋組にキングポストの洋式トラス構造を取り入れて「百畳の間」と称される広大な大広間を実現しており、和と洋を融合させた近代和風の大規模木造建築として高く評価できる。
2 重要文化財 (考古資料)	宮山墳丘墓 <sup>みややまふんきゅうぼたて</sup> 堅 <sup>たて</sup> 穴式石室 <sup>あなしきせきしつ</sup> 出土 <sup>しつ</sup> 品 <sup>ひん</sup> 及び特殊器 <sup>とくしゅき</sup> 台 <sup>だい</sup>  12点	岡山県立博物館  [岡山市北区後楽園]	<b>前方後円墳成立の鍵を握る墳丘墓の出土品</b>  宮山墳丘墓は高梁川東岸 <sup>みややま</sup> の三輪山丘陵に所在する、吉備最古段階の前方後円形の墳丘墓である。宮山墳丘墓を含む宮山墳墓群は昭和38(1963)年に発掘調査され、昭和39(1964)年に県の史跡に指定された。また、出土品のうち完形に近い特殊器台 <sup>とくしゅきだい</sup> 1個体は平成5(1993)年に国の重要文化財に指定されている。  本件は宮山墳丘墓の堅穴式石室に副葬されていた刀・槍形鉄器・鏡・銅鏃・鉄鏃3点・ガラス小玉と墳丘裾から出土した特殊器台4点である。これら出土品は被葬者の性格や前方後円墳の成立を考察する上で重要である。

種 別	名称・員数	所有者・所在地等	説 明
3	名 勝 妙教寺庭園 (寒松庭)	(宗)最上稲荷山妙 教寺 [岡山市北区高松 稲荷]	<p><b>地形を活かした豪壮な庭園</b></p> <p>妙教寺は標高287mの龍王山南山腹に所在する。敷地は南を客殿、東を寒松軒、西を太鼓楼に至る回廊及び宝光閣に囲まれた長方形を呈し、面積は約630㎡である。池泉座観式庭園で、視点場は客殿にある。造庭がいつから始まったか定かではないが、安政5(1858)年の家相図には池が描かれており、江戸時代後期には概観が成立し、その後、客殿や寒松軒が建築された大正時代に現在の形に整えられたと考えられる。</p> <p>本庭園は、山麓斜面を巧みに活用して豪壮な石組みを重層的に配し、背後の竜王山を借景として奥行きのある優れた景観を作り出している。自然と一体感のある風致景観は優秀であり、その鑑賞上の価値は高い。</p>
4	重要無形 文化財 (工芸技術)	漆芸(描蒔醬) 塩津容子 〈保持者認定〉	<p><b>独創的な意匠と緻密な文様に彩られた作品</b></p> <p>描蒔醬とは、黒漆の胎に朱漆で文様を蒔絵筆で描き、表面を備中漆で被覆する装飾法で、故難波仁斎(1903～1976)が伝統的な蒔絵技法と研出法を併せて創案した岡山県独自の技法である。塩津氏は研鑽を積んで描蒔醬の技法を体得し、独自の表現に至っている。主に自然を題材に繊細で緻密な筆遣いで文様を描き、伝統的でありながらデザイン性が高く独創的である。日本伝統工芸展でも受賞を重ね、高い評価を得ている。また、令和4(2022)年に解散した「備中うるし利活用協議会」でも会長を務めるなど、備中漆の復興活動にも積極的に取り組んできた。</p>

種 別	名称・員数	所有者・所在地等	説 明
5 重要無形 文化財 (工芸技術)	もくこうげい 木工芸 かわのまさき 川野正毅 〈保持者追加認定〉	[新見市井倉在住]	高度な技術から生み出された、力強くも柔らかな造形 木工芸の技法には指物・剝物・挽物・曲物等があり、川野氏は特に剝物の技術を体得し、これに精通している。材の選別や木取りにも優れている。力強くシャープな削り面と穏やかな曲線を持つ深い器の造形、樹種の木目を活かした拭き漆で美しく滑らかに仕上げた作品は高く評価され、日本伝統工芸展や岡山県美術展覧会等で受賞を重ねている。また、後継者育成にも尽力し、木工芸の発展に寄与している。

追加指定 ( 附<sup>つけたり</sup>として)

種 別	名称・員数	所有者・所在地等	説 明
1 重要文化財 (建造物)	吉備津彦神社 棟札 2 枚	(宗)吉備津彦神社 [岡山市北区一宮]	昭和初期の再建年代の根拠資料 令和6年度に県の重要文化財に指定した吉備津彦神社の社殿再建工事に関わる木札である。2枚とも高さ約173cmのほぼ同形・同大で、釘穴がない。旧内務省神社局内務技師角南隆 <sup>すなみとかし</sup> らの関与を裏付け、建物の履歴を示す重要な資料である。

指定解除

種 別	名称・員数	所有者	説 明
1 重要文化財 (工芸品)	刀 備州金次 1 口	個人	〈昭和32(1957)年5月13日指定〉 刃長73.8cm、反り2.5cm。茎の表に「備州金次」、裏に「明德4(1393)年」の銘がある。 県外に移動したため、指定を解除する。
2 重要文化財 (工芸品)	短刀 繁慶 1 口	個人	〈昭和35(1960)年8月23日指定〉 刃長25.9cm。刀工は江戸初期に活躍した野田善四郎繁慶。 県外に移動したため、指定を解除する。

※県指定文化財件数 既指定 512件、技術保持者 13名  
今回：指定 4件、追加指定 1件、指定解除 2件  
技術保持者 新規認定 1名、追加認定 1名

※追加指定は指定件数に含めません

指定合計数 514件、技術保持者数 15名

## 指定・認定

### 【 1 】

1 種 別	重要文化財（建造物）
2 名称及び員数	<small>のぎきけべつていたいかどう おもや くら きよたく ゆうよてい せいてん しゃふつめ</small> 野崎家別邸迨暇堂 主屋・蔵・居宅・有蔭亭・清恬・車夫詰 <small>しよ くるまよせ ちゅうもん だいもん</small> 所・車寄・中門・大門門柱 8棟1対
3 所在地	倉敷市児島味野
4 所有者	ナイカイ塩業株式会社
5 年代	明治29（1896）年・明治41（1908）年
6 説明	

野崎家別邸迨暇堂は、児島市街地の東方、小田川沿いに所在する。本宅（重要文化財旧野崎家住宅）の南東約70mにあり、本宅から小田川へ続く道路に面して建つ。野崎家は明治・大正期における日本最大の塩田地主で、当時の味野村は郡役所が置かれる児島の中心地であり、野崎家の本拠地でもあった。元治元（1864）年に家督を相続した武吉郎ぶきちろうは明治23（1890）年に貴族院議員となり、中央知名人との交遊も多く、多くの客人の接待や集会、宿泊の場として本建物の建築が計画された。主屋は、残存する棟札から明治29年の建築と判明し、有蔭亭と清恬は、武吉郎の還暦記念に明治41年に建築されたと伝えられている。建築当初の図面は見つかっていないが、明治41年及び同45（1912）年、大正14（1925）年の3枚の絵図が残されており、明治末から大正期にかけて増改築が行われ、おおむね今日の姿に整備されたと考えられる。

屋敷地は南北約120m、東西約80m、面積約7,244㎡と広大で、敷地の北西に上質な近代和風の木造の建築群が建ち並ぶ。敷地周囲に塀を回し、本宅へ通じる北側道路に面して正門となる大門を構える。大門から前庭を隔てて主屋の玄関を北面して構え、玄関を中心に、西に蔵、北西に居宅、北東に車寄及び車夫詰所が建つ。中門は前庭東側に設けられ、主屋南側に広がる庭園への入り口となる。有蔭亭は主屋の南西に建つ離れで、清恬は庭園東塀沿いに建てられている。

主屋は玄関のみ本瓦葺とし、正面に破風はふを見せ、式台を構えて格式を備える。特筆されるのは「百畳の間」と称される大広間で、北から30畳、30畳、40畳の3室を続き間とし、奥の40畳南端に幅2間半の床の間を設けている。小屋組はキングポストの洋式トラス構造で、梁間はりま5間を無柱とし、建具を外すと100畳の大広間となる。広縁から続く浴室は上質で長尺な石材を使用し、便所には足元の踏み板に乗ると吐水口から水が出る自動水洗を備える。主屋には聴鶯軒ていおうけんと呼ばれる茶室も別棟で付随する。

蔵は南蔵と北蔵に分かれるが、共に外部を灰色の漆喰しっくいで塗り込め、腰部等を四

半張りの海鼠壁なまこかべとしている。蔵北東には浴室2か所と便所を設けている。

居宅は屋敷を維持する使用人の住宅とされる。竿縁天井の簡素な造りである。

有蔭亭すきやづくりは数寄屋造で、洗練された意匠に富み、上質の材を用いた上品な建築である。別棟の上客用の浴室も、数寄屋風の意匠を見せる。

清恬は草庵風の茶室で、速水流家本宗及を招いて設計したと伝えられている。切妻造の棟をT字形に組み、針目覆はりめおおいとする独特の造り。内部は細部にまで意匠を凝らした丁寧な造りである。

車夫詰所は内部に間仕切りの無い簡素な造りであるが、軒裏を扇垂木とし、相応の意匠的配慮が見られる。

車寄は人力車4台を収納でき、多人数で使用される当施設の利用状況を物語ると共に、当時の交通事情の一端を知る上で貴重である。

中門は主屋背後の南庭に向かう園路の入り口に当たる。間口は約1.7mで、檜皮葺ひわだぶきの棟持門である。棟を瓦で抑えた端正な姿形をとる。

大門門柱は花こう岩製の角柱で、高さは約3.6m、間口は約4.3mである。表面は叩き仕上げで、頭部を大斗状くに削った丁寧な造りである。

野崎家別邸迨暇堂は棟札により建築年代が明らかであり、迎賓館及び宿泊や集会施設としての機能を備え、個々の機能に応じた建物が計画的に配置されている。大規模にして複雑な建築構成をとるが、それぞれの建物の質は高く、明治末から昭和初期にかけて増改築が行われているものの、残存する絵図等によっておおよその増改築年代が判明し、これら建築群が良好な状態を保ち現存する点は貴重である。特に主屋は、伝統的な意匠を持ちつつも、西洋の構造技術を取り入れた巧みな施工により広大な内部空間を実現しており、和と洋を融合させた近代和風の大規模木造建築として高く評価できる。

## 参考文献

竜王会館 2006 『野崎家旧宅調査報告書』

一般社団法人 岡山建築士会倉敷支部 2014 『野崎家別邸迨暇堂 実測調査報告書』

【 2 】

1	種 別	重要文化財（考古資料）
2	名称及び員数	宮山墳丘墓竪穴式石室出土品及び特殊器台 12点
3	所在地	岡山市北区後樂園
4	所有者	岡山県立博物館
5	年代	弥生時代後期末（三世紀）
6	説明	

宮山墳丘墓は、総社市宮山に所在する。総社平野の西側を流れる高梁川東岸の、三輪山丘陵から北西に細長く下る尾根上に位置する。墳長38mの前方後円形の墳丘墓で、昭和38（1963）年に三輪山遺跡調査団によって発掘調査された。宮山墳丘墓を含む宮山墳墓群は、発掘調査の翌年、県の史跡に指定されている。宮山墳丘墓は吉備最古段階の前方後円形の墳墓であり、前方後円墳の成立を考える上で欠くことができない重要な遺跡である。これまでに発掘調査についての詳細な報告はされていなかったが、近年の研究により出土品の内容が明らかとなったので、このたび、竪穴式石室の副葬品8点と墳丘築造に伴う特殊器台4点を指定する。

宮山墳丘墓の埋葬施設は竪穴式石室で、木棺が置かれていたと想定されている。竪穴式石室内からは鉄刀1点、槍形鉄器1点、鏡1点、鉄鏃<sup>てつぞく</sup>3点、銅鏃<sup>どうぞく</sup>1点及びガラス小玉1点が出土しており、鏡及びガラス小玉は被葬者の頭部付近、槍形鉄器は右足の横に切先を足側に向け、鉄刀は胴部左側で刃を被葬者に向けて副葬されている。鉄鏃と銅鏃は棺外に置かれていたと推定されている。

これら竪穴式石室出土品は宮山墳丘墓の築造年代を推定する基準資料であり、当該期の副葬品の内容や埋葬儀礼を示すと共に、金属器の分布や流通は当時の社会関係を反映しているとみられ、被葬者の性格を考える上で重要である。

特殊器台は弥生時代後期における吉備の墳墓祭祀を特徴付ける考古資料である。発掘調査では棺に転用された特殊器台がほぼ完全な形で出土し、弥生時代の葬送儀礼の一端を示す重要な資料として、平成5（1993）年に国の重要文化財に指定されている。この特殊器台は「宮山型特殊器台」と命名され、それまでに出土していた特殊器台と円筒埴輪を繋ぐ考古資料として重要視されてきた。また、「宮山型特殊器台」は最古の大型前方後円墳である奈良県箸墓古墳から出土しており、吉備と大和を結ぶ考古資料としても注目されている。このほかにも宮山墳丘墓からは破片の状態です特殊器台が多く出土しており、元々は10個体以上が後円部墳頂と前方部上に配置されていたと推定されている。中でもこのたび指定する4点は保存状態が良好で全容を窺い知ることができ、「宮山型特殊器台」を理解する上で特に重要である。

本件は、宮山墳丘墓を理解する上で欠かせない資料であり、吉備における弥生時代から古墳時代へ移り変わる頃の墳墓祭祀の様相や葬送儀礼のあり方をよく表し、高い学術的価値を有している。また、吉備と大和をはじめとする諸地域との関係を考える上でも重要である。

## 鏡・玉・金属器 一覧

種別	状態	法量
鏡(飛禽鏡)	完形	直径 9.7 cm、内区最大厚約 0.2 cm、外区最大厚約 0.3 cm、重量 117 g、紐径約 1.5 cm
ガラス小玉	完形	直径 4.18 mm、高 1.91 mm、孔径 1.70 mm
鉄刀	切先・刃部欠損	残存長約 62.4 cm
槍形鉄器	茎尻欠損	身部長 21.3 cm、茎残存長 2.4 cm、厚 0.3~0.5 cm
鉄鏃	ほぼ完形	全長 7 cm、身部長 4.9 cm、茎長 2.1 cm、身部最大厚約 0.5 cm
鉄鏃	ほぼ完形	全長 6.9 cm、身部長約 4.9 cm、茎長約 2.1 cm、厚 0.3~0.4 mm
鉄鏃	ほぼ完形	全長約 6.5 cm、身部長 4.7 cm、茎長約 1.8 cm、厚 0.3 cm
銅鏃	欠損	残存長 3 cm、残存身部長 1.5 cm、茎長 1.5 cm、最大厚 0.3 cm

## 特殊器台一覧

法量 cm	特徴	状態
① 復元高約 45、復元筒部最大直径約 31、器厚 0.9~1.7、突帯幅約 1、突帯高 0.8~1.1	国重要文化財特殊器台に共伴、墳丘北側くびれ部出土資料と接合、墳丘焼成良好、脚裾上端~第 2 文様帯下部、丹塗り、突帯剥離面に丹、第 1 文様帯は長方形の透かし孔を 4~5 有し、透かし穴内間を 2 本の縦線で分割した中を斜線で埋める、施文の沈線は細い、間帯を丁寧なナデで平滑に仕上げる	破片多数
② 復元高約 58.5、復元筒部最大直径 36.2、器厚 0.8~1.5、突帯幅約 1.5~1.8、突帯高 0.8~1.3	国重要文化財特殊器台に共伴、焼成良好、第 1 間帯~第 3 文様帯、黒斑有、丹塗り、丹塗り幅は 20 cm 弱間隔か、突帯剥離面に丹、第 1 文様帯は長方形の透かし孔を 4~5 有し、透かし穴内間に 3~4 本の斜直線からなる文様、第 2 文様帯巴形透かし孔下側に扇形文、間帯はヨコナデ仕上げ、第 1 間帯はヨコナデの下に部分的にタテハケが残る	破片多数
③ 復元高約 18.7、復元筒部最大直径 33.7、器厚 1.1~1.6、突帯幅約 1.3~1.5、突帯高 0.7~1.1	第 3 文様帯上端~頸部、焼成やや軟質、丹塗り、間帯ヨコナデ	破片多数
復元高約 45、復元脚部径 42、復元筒部最大径約 31、器厚 0.8~1.6、突帯幅約 1.1~1.8、突帯高 0.9~1.1	脚端~第 2 文様帯下端、焼成やや軟質、丹塗り、第 1 文様帯は S 字状文、巴形透かし孔間の S 字状文様帯間に空白部分あり、内面第 2 間帯まで削り方向斜め	
④ 復元口縁部径 35.5、復元筒部最大径 36.5、復元高 26.7、器厚 0.9~1.7、突帯幅 0.7~1.1、突帯高 0.8~1.1	口縁部~第 3 文様帯上部、第 4 間帯を設ける、黒斑有、口縁部上端まで丹塗り、内面削り横方向	破片多数

## 参考文献

- 高橋護・鎌木義昌・近藤義郎 1986 「宮山墳墓群」 『岡山県史』 第 18 巻考古資料編 岡山県史編纂委員会  
 春成秀爾 2017 「宮山系特殊器台の研究」 『研究報告』 37 岡山県立博物館  
 中園聡・平川ひろみ・太郎良真妃・若松花帆/春成秀爾 2017 「宮山系特殊器台の産地分析」 『研究報告』 37 岡山県立博物館  
 光本順・四田寛人 2020 「弥生墳丘墓・初期古墳の三次元計測」 『津倉古墳』 岡山大学考古学研究室  
 宇垣匡雅・岩本崇・ライアンジョゼフ 2024 「宮山遺跡出土遺物の研究」 『研究報告』 44 岡山県立博物館

【 3 】

1	種	別	名勝
2	名	称	妙教寺庭園（寒松庭）
3	所	在	地
4	所	有	者
5	年	代	江戸時代
6	説	明	

最上稲荷山妙教寺は、標高約287mの竜王山南山腹りゅうおうざんに所在する。寺伝によれば、平安時代の初め報恩大師が開いたが天正10（1582）年に戦火により焼失し、慶長6（1601）年に日円が再興して天台宗から日蓮宗に改宗し、寺名も最上稲荷山妙教寺と改めたと伝えられる。現在は通称最上稲荷の名で知られる。

庭園は客殿の北に位置する。山麓斜面を活かした池泉座観式ちせんざかんの庭園で、敷地は東を寒松軒、西を太鼓楼に至る回廊及び宝光閣に囲まれた東西約20～25m、南北約32mの長方形を呈し、面積は約630㎡である。造庭は、日円が寺を再興した時期から始まると伝えられるが、年月は定かでない。しかし、安政5（1858）年の家相図には池が描かれており、江戸時代後期には概観が成立していると考えられる。その後、大正6（1917）年に客殿や回廊が改修され、寒松軒が建築されていることから、この時期に現在の形に整えられたと考えられる。

視点場は客殿にあり、北側遠方の竜王山を借景とし、さらに池西側の回廊と、その北端にそびえる太鼓楼も景色としている。斜面最上部中央には高さ約1.9mの立石を配し、背後に五重塔形の灯籠を置く。立石の足元には溝を掘った水落石が突き出し、下部には水受け石がある。ここを源に枯滝かれたきの石組が溪谷を作り、池に達する。枯滝の両側斜面には石組の段を設け、西側平坦面はコケ貼りとし、飛石を打つ。東側は狭い尾根状に南に延び、亀頭石が飛び出す。枯滝と池の間には「安政七年」銘を刻む鏡石を持つ井戸が接する。寒松軒の南には蹲踞つくばいを設け、蹲踞の奥には石灯籠を立てる。

池は東西約11.8m、南北約5.5mの心字形で、南岸中央東寄りに礼拝石を配す。礼拝石から池中に沢飛石が打たれ、対岸の伝い石に繋がる。礼拝石の西側には出島があり、その延長にも沢飛石を打つ。池の手前は総じて平坦な石組みで仕上げられ、対岸は風景的に起伏の多い石組とする。

本庭園は、地形を活かして重層的に石を配した豪壮な庭園であり、竜王山を借景とした奥行きのある優れた風致景観を有し、鑑賞上の価値が高い。

参考文献

- 林まゆみ 2025 「最上稲荷山妙教寺庭園（寒松庭）」『岡山県庭園調査報告書』岡山県教育委員会  
 重森三玲 1974 「妙教寺（最上稲荷）庭園」『日本庭園史体系』13 社会思想社・日本庭園史体系刊行会  
 山本利幸 1992 「妙教寺庭園」『岡山の名園』山陽新聞社

## 【 4 】

- 1 種 別 重要無形文化財（工芸技術）
- 2 名 称 漆芸（描蒔<sup>かききんま</sup>醬）
- 3 保持者の氏名 塩津<sup>しおつようこ</sup>容子
- 4 保持者の生年月日、年齢、住所  
昭和22（1947）年4月26日  
78歳  
総社市総社
- 5 説 明

描蒔醬は漆芸の加飾技法の一つで、漆芸家難波<sup>じんさい</sup>仁斎（1903～1976）が伝統的な蒔<sup>まきえ</sup>絵と研出法を併せて創案した。黒漆塗りの胎に蒔絵筆を用いて主として朱漆で文様を描き、表面に透明性の高い備中漆を塗り、研ぎと塗りを繰り返して仕上げる。柔らかく伸びやかな線描を特徴とし、幾重にも重ねて研ぎ出した透明漆が、表現上に叙情的な深みを与えている。県の工芸史上重要な位置を占める技法として昭和39（1964）年に県指定重要文化財に指定し、難波仁斎を保持者に認定したが、同人の逝去により解除した。

塩津氏は総社市に生まれ、木彫家の祖父塩津玉堂の下、工芸の道に進み、昭和57（1982）年から漆芸家山口<sup>まつた</sup>松太（元県指定重要無形文化財保持者）に師事して伝統的な漆芸の技法を高度に体得した。平成4（1992）年に難波仁斎の作品に触発されて描蒔醬に取り組み、研鑽<sup>けんさん</sup>を積んでその技法を修得し、独自の表現に至っている。独創的な意匠と緻密な文様を透明性の高い備中漆で仕上げた作品は、高い評価を得ている。

平成4年に描蒔醬作品で日本伝統工芸中国展広島県知事賞を受賞して以来、各展において入選・受賞を重ね、平成28（2016）年には日本伝統工芸中国支部展金重陶陽賞を、令和2（2020）年には岡山県文化賞を受賞している。また、平成10（1998）年に日本工芸会の正会員に認定された。

同人は平成6（1994）年から平成26（2014）年まで岡山県郷土文化財団や社団法人林原共済会が共同で取り組んできた漆の植栽活動にも携わり、それを引き継いだ備中うるし利活用協議会の会長を務めるなど、描蒔醬に欠かせない備中漆の復興と発展に取り組んできた。また、平成18（2006）年からは漆芸教室や漆芸体験教室、ワークショップを開き、漆芸の発展及び後進の育成にも尽力している。

<略歴>

- 昭和41年 県立総社高校卒業  
昭和52年 木彫家塩津玉堂に師事  
昭和57年 漆芸家山口松太に師事  
平成元年 総社市にて初個展開催  
平成4年 描蒔髹技法に取り組む  
平成10年 日本工芸会正会員  
平成24年 公益社団法人日本工芸会中国支部常任幹事、同支部漆芸部会長  
平成26年 備中うるし利活用協議会会長（令和4年解散）  
平成27年 日本伝統工芸中国支部展 審査委員（以降、令和6年までに5回）

<主な受賞歴>

- 昭和55年 第31回岡山県美術展 初入選  
昭和63年 第39回岡山県美術展 岡山県教育長賞  
平成元年 第32回日本伝統工芸中国展 初入選  
平成2年 第32回日本伝統工芸中国支部展 中国支部長賞  
平成3年 第8回日本伝統漆芸展 初入選  
平成4年 第35回日本伝統工芸中国支部展 広島県知事賞  
平成11年 第50回岡山県美術展 山陽新聞社大賞  
平成19年 第50回日本伝統工芸中国支部50周年記念展 テレビせとうち賞  
第24回日本伝統漆芸展 日本工芸会賞  
平成22年 第53回日本伝統工芸中国支部展 岡山県知事賞  
平成23年 第53回岡山県文化奨励賞  
平成24年 福武文化奨励賞  
平成28年 第59回日本伝統工芸中国支部展 金重陶陽賞  
平成31年 第77回山陽新聞賞（文化功労）  
令和2年 第72回岡山県文化賞  
令和6年 第71回日本伝統工芸展 入選

## 【 5 】

平成10年2月新見市指定

- 1 種 別 重要無形文化財（工芸技術）  
 2 名 称 木工芸  
 3 保持者の氏名 かわのまさき 川野正毅  
 4 保持者の生年月日、年齢、住所  
 昭和16（1941）年9月25日  
 84歳  
 新見市井倉

## 5 説 明

川野氏は新見市に生まれ、昭和36（1961）年から職場サークルで木工芸を始めた。木工芸家森田翠玉すいぎよく（県指定重要無形文化財保持者）に才能を見出され、昭和52（1977）年から森田翠玉に師事し、伝統的な技法を体得した。

木工芸の技法にはさしもの指物、くりもの刳物、ほりもの彫物、ひきもの挽物、まげもの曲物があるが、同人は刳物の技法を高度に体得している。木工芸の製作には素材の特色を生かし、狂いが生じないようにするため入念な工程を要するが、同人は材の選別や木取りにも優れている。同人は桑・けやき・もみじ・栃などを素材とし、じきろう盆や食籠、短冊箱などを中心に製作を続け、特に漆仕上げのこうもりぶた甲盛蓋の製作を得意とする。一塊の材木から刳り出された薄い木厚や柔らかな稜線の削り出しには高度な技術を要し、力強くシャープな削り面と穏やかな曲線を持つ深い器の造形や木目を活かしたふきうるし拭漆で美しく滑らかに仕上げた作品は、高い評価を得ている。

昭和56（1981）年に岡山県美術展に初入選して以来、各展において入選・受賞を重ね、平成3（1991）年に日本伝統工芸中国支部展金重陶陽賞を、平成8（1996）年に日本伝統工芸展日本工芸奨励賞を受賞した。また、平成4（1992）年に日本伝統工芸展の正会員に認定されており、それらの実績から、平成10（1998）年に新見市指定重要無形文化財木工芸保持者に認定された。

同人は日本伝統工芸展中国支部展審査委員、岡山県美術展審査員などを歴任し、伝統的な木工芸の発展に貢献している。また、精力的に製作活動を続ける傍ら、地元で木工ろくろ教室を主宰するなど、木工芸の普及啓発及び後進の育成にも尽力している。

<略歴>

昭和35年 吉備高等学校機械科卒業  
昭和52年 木工芸家森田翠玉に師事  
平成4年 日本工芸会正会員  
平成5年 新見市において初個展開催  
平成10年 新見市指定重要無形文化財保持者に認定  
平成18年 日本伝統工芸中国支部展 審査委員（以降、令和3年までに8回）  
平成21年 日本伝統工芸木竹展 監査委員  
平成22～27年 日本工芸会中国支部 木竹工部会長・常任幹事  
平成23～26、28年～令和元（2019）年 岡山県美術展覧会審査員

<主な受賞歴>

昭和56年 第32回岡山県美術展 初入選  
昭和62年 第34回日本伝統工芸展 初入選  
昭和63年 第31回日本伝統工芸中国支部展 初入選  
平成2年 第33回日本伝統工芸中国支部展 日本工芸会賞  
平成3年 第34回日本伝統工芸中国支部展 金重陶陽賞  
平成5年 第44回岡山県美術展 岡山県知事賞  
平成8年 第43回日本伝統工芸展 奨励賞  
第8回日本伝統工芸木竹展 初入選  
第47回岡山県美術展 岡山県教育長賞  
平成20年 第59回岡山県美術展 山陽新聞社賞  
平成21年 第1回備中漆作品展 山陽新聞社長賞  
平成22年 第52回岡山県文化奨励賞  
平成26年 第72回山陽新聞賞（文化功労）  
令和6年 第71回日本伝統工芸展 入選

## 追加指定

### 【 1 】

- 1 種 別 重要文化財（建造物）
- 2 名称及び員数 吉備津彦神社 棟札<sup>むなふだ</sup> 2枚
- 3 所在地 岡山市北区一宮
- 4 所有者 (宗)吉備津彦神社
- 5 年代 昭和12（1937）年
- 6 説明

吉備津彦神社は、創建以来再建、修造が繰り返され、元禄10（1697）年に造営された社殿も、昭和5（1930）年の火災で本殿、随神門<sup>ずいじんもん</sup>、中門<sup>ちゅうもん</sup>を残して焼失し、その他の現存する建物は昭和初期に再建された建物である。これら建物のうち、渡殿<sup>わたりでん</sup>、釣殿<sup>つりでん</sup>、祭文殿<sup>さいもんでん</sup>、軒廊<sup>こんろう</sup>、拝殿<sup>はいでん</sup>及び神饌所<sup>しんせんじょ</sup>は、内務省神社局が関与した昭和初期の大規模社殿として、令和6年度に県重要文化財に指定している。

本品は昭和初期の再建にかかわる木札である。本品は宝物庫内に2枚とも安置されており、ほぼ同形でともに釘穴がない。記載も一致しており、表には神社神職や内務省職員、大工、棟梁など工事関係者の氏名や所属、裏面には各建物の起工・竣工年月日などを墨書している。本品により、渡殿が昭和8（1933）年に、神饌所が昭和9（1934）年に、釣殿、祭文殿、軒廊及び拝殿が昭和11（1936）年に竣工したことが明らかとなった。建造物の履歴にとって重要な資料であり、附として追加指定する。

### 法量等一覧

	形態	総高cm	上幅cm	下幅cm	厚さcm	材質	仕上げ	木取
棟札1	尖頭型	173.0	40.0	24.5	3.3	檜	台鉋	柃目
棟札2	尖頭型	172.5	40.5	24.1	2.7	檜	台鉋	柃目

※形態分類は佐藤正彦 1995『天井裏の文化史』講談社による

## 指定解除

### 【 1 】

- 1 種 別 重要文化財（工芸品）
- 2 名 称 刀 備州金次<sup>びしゅうかねつぐ</sup>
- 3 指 定 年 月 日 昭和32年5月13日
- 4 旧 所 有 者 個人
- 5 説 明

刃長73.8cm。<sup>なかご</sup>茎の表に「備州金次」、裏に「明德4(1393)年」の銘がある。  
県外に移動したため、指定を解除する。

### 【 2 】

- 1 種 別 重要文化財（工芸品）
- 2 名 称 短刀 繁慶<sup>はんけい</sup>
- 3 指 定 年 月 日 昭和35年8月23日
- 4 旧 所 有 者 個人
- 5 説 明

刃長25.9cm。刀工は江戸初期に活躍した野田善四郎繁慶。  
県外に移動したため、指定を解除する。

指定



1-1 野崎家別邸迺暇堂（北から）



1-2 主屋 「百畳の間」(北から)



1-3 蔵(北から)



1-4 居宅 (北西から)



1-5 有奠亭 (南から)



1-6 清恬 (西から)



1-7  
車夫詰所 (南西から)



1-8  
車寄・中門 (南西から)



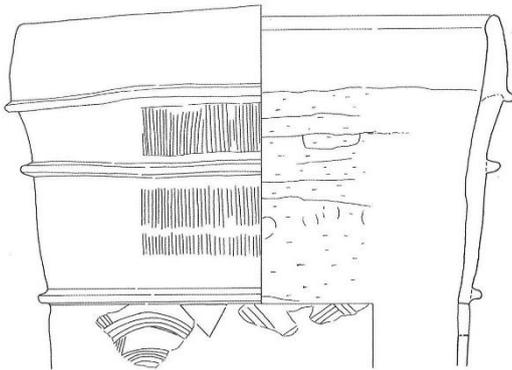
1-9  
大門門柱 (南から)



2-1 宮山墳丘墓豎穴式石室出土品  
 (鏡・槍形鉄器・銅鏃・鉄鏃・ガラス小玉)



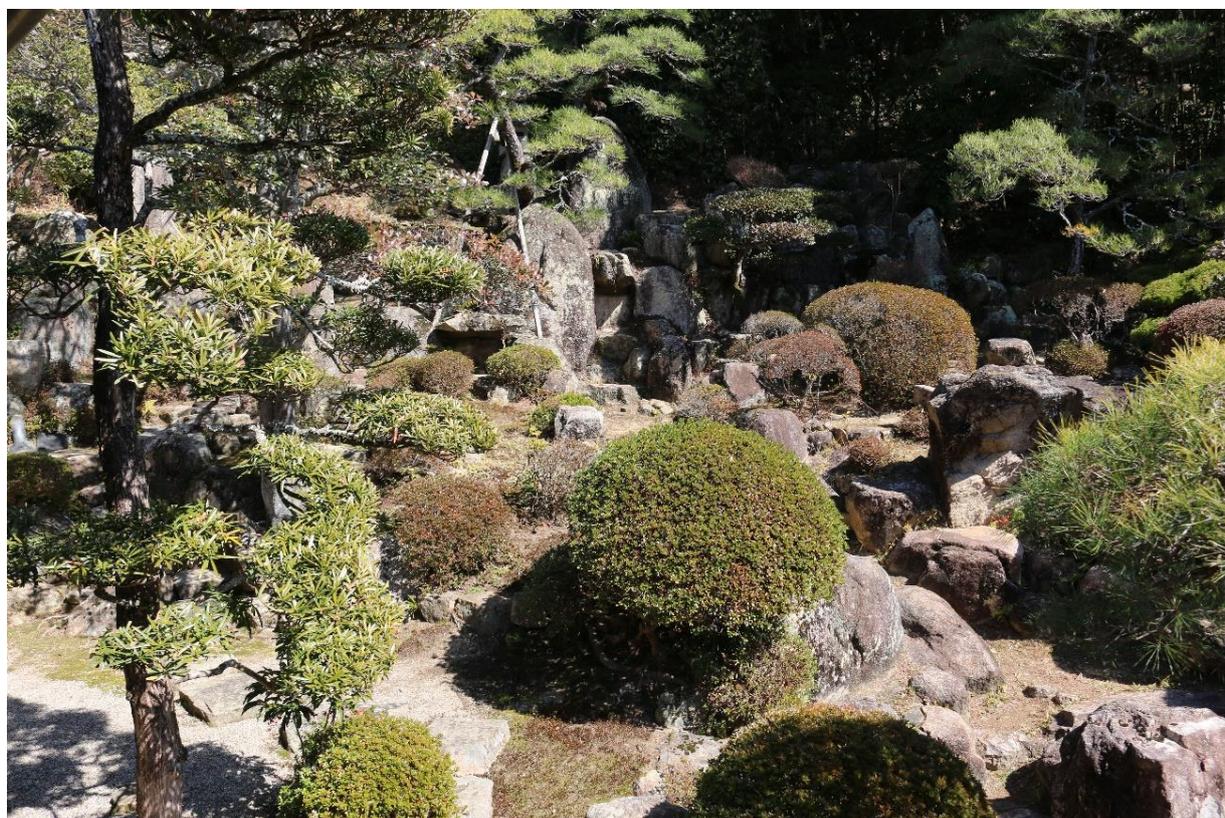
参考：国重要文化財 特殊器台



2-2 宮山墳丘墓出土 特殊器台



3-1 妙教寺庭園全景（南西から）



3-2 妙教寺庭園枯滝（南から）



4-1 塩津容子 近影

新規認定



4-2 金重陶陽賞受賞作 (2016)  
「描蒔醬菓子器」



5-1 川野正毅 近影

追加認定



5-2 金重陶陽賞受賞作 (1991)  
「黒柿拭漆短冊箱」

追加指定

表

裏



吉備津彦神社 棟札

岡山県指定重要文化財等件数表

区 分		既指定件数	指定後の件数	
重 要 文 化 財	美 術 工 芸 品	絵 画	26	26
		彫 刻	68	68
		工 芸 品	90	88
		書 跡 ・ 典 籍	7	7
		古 文 書	11	11
		考 古 資 料	17	18
	歴 史 資 料	9	9	
建 造 物	建 造 物	125	126	
記 念 物	史 跡	62	62	
	名 勝	8	9	
	天 然 記 念 物	37	37	
重 要 無 形 文 化 財		5 (13人・1団体)	6 (15人・1団体)	
重 要 民 俗 文 化 財	重 要 有 形 民 俗 文 化 財	12	12	
	重 要 無 形 民 俗 文 化 財	35	35	
選 定 保 存 技 術		0	0	
合 計		512	514	

# 県指定重要文化財 [工芸品]

名 称	[ 員 数 ]	所在地	所有者又は管理者	指定年月日
1 太刀正恒 (古青江)		岡山市北区後楽園	岡山県立博物館	昭和32年11月5日
2 太刀 幸景		岡山市北区後楽園	岡山県立博物館	昭和46年6月18日
3 備前焼壺		岡山市北区後楽園	岡山県立博物館	昭和31年9月25日
4 木造彩色菊牡丹透華鬘 [二枚]		岡山市北区後楽園	岡山県立博物館	平成3年4月5日
5 紫糸威腹巻		岡山市北区後楽園	岡山県立博物館	平成3年4月5日
6 備前焼四耳壺		岡山市北区後楽園 県立博物館寄託	岡山後楽園 (岡山市北区後楽園)	昭和34年3月27日
7 刀 銘備前国長船住人横山上野大掾藤原祐定 奉寄 進於当国一宮大明神者也 寛文六丙午年正月十九日		岡山市北区後楽園 岡山県立博物館寄託	吉備津彦神社 (岡山市北区一宮)	平成31年3月8日
※ 刀 備州金次			個人	昭和32年5月13日指定、 令和8年3月指定解除予定
8 恒次太刀		岡山市北区丸の内	林原美術館	昭和30年5月17日
9 古備前鐘状水指		岡山市北区丸の内	林原美術館	昭和31年4月1日
10 刀 無銘 (青江物)		岡山市北区丸の内	林原美術館	昭和32年11月5日
11 池田忠雄墓所鉄灯台		岡山市南区浦安本町	清泰院	昭和34年3月27日
12 備前国長船住左近将監長光太刀		岡山市北区後楽園 県立博物館寄託	個人 (岡山市)	昭和31年4月1日
13 真葛作楠溪下絵染付手付樽		岡山市北区天神町 県立美術館寄託	個人 (岡山市)	昭和32年11月5日
14 短刀 備中国住次吉		岡山市北区後楽園 県立博物館寄託	個人 (岡山市)	昭和34年1月13日
15 刀 長曾禰与里入道虎徹		岡山市北区後楽園 県立博物館寄託	個人	昭和35年4月26日
16 樋蒔絵衛府太刀拵 附 太刀無銘		岡山市北区後楽園 県立博物館寄託	個人	昭和39年12月2日
17 梵鐘		岡山市北区日応寺	日応寺	昭和34年3月27日
18 五鈷杵・五鈷鈴		岡山市北区後楽園 県立博物館寄託	金山寺	平成4年4月3日
19 行道面 [十一面]		岡山市北区後楽園 県立博物館寄託	吉備津神社 (岡山市北区吉備津)	昭和34年3月27日
20 大太刀 銘 備州長船秀幸		岡山市北区後楽園 県立博物館寄託	吉備津神社 (岡山市北区吉備津)	昭和57年4月9日
21 大太刀 法光		岡山市北区後楽園 県立博物館寄託	吉備津神社 (岡山市北区吉備津)	平成6年4月5日
22 木瀬浄阿彌作円鏡		岡山市北区後楽園 県立博物館寄託	葦守八幡宮 (岡山市北区下足守)	昭和34年3月27日
23 梵鐘		岡山市北区下高田	上願寺	昭和34年3月27日
24 信国太刀		岡山市北区後楽園 県立博物館寄託	個人	昭和30年5月17日
25 刀 伝 雲重		岡山市北区後楽園 県立博物館寄託	蜂谷工業株式会社 (岡山市)	昭和57年4月9日
26 梵鐘		岡山市北区後楽園 県立博物館寄託	妙覚寺 (岡山市北区御津金川)	昭和34年3月27日
27 銅板法華経		岡山市北区御津金川	妙覚寺	昭和37年4月3日
28 太刀 銘雲生		岡山市北区大供	岡山市	昭和62年4月3日
29 太刀 無銘 (伝福岡一文字)		岡山市北区奥田	個人	昭和46年6月18日
30 色々威腹巻		岡山市北区丸の内 林原美術館	林原美術館	平成29年3月7日
31 藍韋威胸緋腹巻		岡山市北区丸の内 林原美術館	林原美術館	平成29年3月7日
32 鉄黒漆阿古陀形五十八間総覆輪筋兜		岡山市北区丸の内 林原美術館	林原美術館	平成29年3月7日
33 太刀 銘 備中国万寿庄住左兵衛尉恒次 元徳二年 十月日 附 黒漆塗鞘打刀拵 一口・延宝八年本阿 弥光常折紙 一通		岡山市北区丸の内 林原美術館寄託	ナガセヴィータ株式会社	令和2年3月13日
34 黒漆塗黒糸威菱綴桶側二枚胴具足		岡山市北区丸の内 林原美術館	林原美術館	令和7年3月18日
35 三角縁二神四獣鏡 (伝 吉備津神社付近出土)		岡山市北区後楽園 県立博物館寄託	個人	昭和32年5月13日
36 宇野津焼染付鉢		倉敷市林	個人	昭和34年3月27日
37 唐櫃		岡山市北区後楽園 県立博物館	岡山県立博物館	平成2年4月3日
38 短刀 銘信国 附葵紋合口拵		岡山市北区後楽園 県立博物館寄託	五流尊瀧院 (倉敷市林)	昭和36年7月25日
39 梵鐘		倉敷市林	五流尊瀧院	昭和49年5月31日
40 太刀 眞依		岡山市北区後楽園 県立博物館寄託	個人	昭和32年5月13日
41 大太刀 銘義隆		倉敷市玉島中央町	羽黒神社	平成9年3月25日
42 梵鐘		倉敷市児島由加	運台寺	昭和34年3月27日
43 短刀 守次		倉敷市老松町	個人	昭和46年6月18日
44 短刀 助光		倉敷市美和	個人	昭和46年6月18日
45 太刀 銘宗貞		岡山市北区後楽園 県立博物館寄託	個人	昭和55年4月8日
46 刀 銘 藤原直胤 (花押) 天保八年一陽来復日		岡山市北区後楽園 県立博物館寄託	個人	平成15年3月11日
47 梵鐘		津山市小田中	安国寺	平成17年3月11日
48 朱漆塗本小札啄木糸威胴丸具足		津山市山下 津山郷土博物館寄託	個人	令和4年3月11日

49	脇差 盛光	玉野市田井	中部助川興業株式会社	昭和35年8月23日
50	脇差 備前長船康光	玉野市田井	中部助川興業株式会社	昭和38年3月30日
51	梵鐘	笠岡市走出	持宝院	昭和34年3月27日
52	梵鐘	笠岡市笠岡	遍照寺	昭和34年3月27日
53	短刀 貞次	笠岡市笠岡	個人	昭和46年6月18日
54	梵鐘	井原市高屋町	高山寺	昭和34年3月27日
55	梵鐘	総社市井尻野	宝福寺	昭和34年3月27日
56	宝剣 銘国重 [三口] 宝剣拵 [三口]	高梁市原田北町 高梁市歴史美術館	高梁市	平成8年4月2日
57	日の丸金箔押紺糸威二枚胴具足	高梁市原田北町 高梁市歴史美術館	高梁市	平成10年3月24日
58	赤黒片身替白糸威二枚胴具足	高梁市原田北町 高梁市歴史美術館	高梁市	平成10年3月24日
59	銅鱧口	高梁市備中町西油野	観音寺	昭和41年4月27日
60	金銅阿弥陀三尊懸仏	高梁市原田北町 高梁市歴史美術館寄託	長建寺	平成29年3月7日
61	備前焼茶壺	備前市浦伊部	個人	昭和31年9月25日
62	備前焼欄間獅子 [一对]	備前市立吉永美術館	長法寺 (備前市伊部)	昭和34年3月27日
63	梵鐘	備前市浦伊部	妙園寺	昭和34年3月27日
64	備前焼狛犬 [一对]	備前市立吉永美術館	天神社 (備前市木谷)	昭和53年4月14日
65	剣 銘祐定	岡山市北区後楽園 県立博物館	岡山県立博物館	昭和55年4月8日
66	太刀 無銘 (伝国俊)	備前市三石	個人	昭和39年12月2日
67	磬	瀬戸内市牛窓町千手	弘法寺	昭和34年3月27日
68	黒韋威鎧 大袖付 附 鍬形	岡山市北区後楽園 県立博物館寄託	五香宮 (瀬戸内市牛窓町牛窓)	昭和63年4月1日
69	太鼓形酒筒 (太鼓樽)	瀬戸内市牛窓町千手	遍明院	平成10年3月24日
70	馬具 [四懸]	岡山市北区後楽園 県立博物館寄託	五香宮 (瀬戸内市牛窓町牛窓)	平成10年3月24日
71	静円寺永正銘備前焼花瓶	岡山市北区後楽園 県立博物館寄託	静円寺 (瀬戸内市邑久町本庄)	昭和31年4月1日
72	静円寺永禄銘備前焼花瓶	岡山市北区後楽園 県立博物館寄託	静円寺 (瀬戸内市邑久町本庄)	昭和31年4月1日
73	梵鐘	瀬戸内市邑久町北島	餘慶寺	昭和34年3月27日
74	杏葉形 轡 [一具]	岡山市北区後楽園 県立博物館寄託	豊原北島神社 (瀬戸内市邑久町北島)	平成12年3月28日
75	桃形 轡 [一具]	岡山市北区後楽園 県立博物館寄託	豊原北島神社 (瀬戸内市邑久町北島)	平成12年3月28日
76	紅糸素懸威銀箔押二枚胴具足	岡山市北区後楽園 県立博物館寄託	大賀島寺 (瀬戸内市邑久町豊原)	平成6年4月5日
77	清水寺鱧口	真庭市関	清水寺	昭和31年4月1日
78	若代出土備前焼壺 [十八個] 附 須恵器かめ、瀬戸瓶子	真庭市勝山 真庭市勝山郷土資料館	真庭市	昭和44年7月4日
79	備前焼薄端花生	和気町和気	個人	昭和34年3月27日
80	陣太鼓	岡山市北区後楽園 県立博物館寄託	安養寺 (和気町泉)	平成15年3月11日
81	長谷部国重 短刀	矢掛町矢掛	個人	昭和30年5月17日
82	金銅板貼山伏笈	鏡野町寺和田	円通寺	昭和60年4月2日
83	梵鐘	鏡野町馬場	小田草神社	平成18年3月17日
84	鱧口	美咲町岡山寺	岡山寺	昭和34年3月27日
85	妙本寺出土備前焼壺・大甕 [三十七個] 附 瀬戸褐釉印花文瓶子	吉備中央町北	妙本寺	平成10年3月24日
86	梵鐘	吉備中央町湯山	清水寺	昭和34年3月27日
※	短刀 繁慶		個人	昭和35年8月23日指定 令和8年3月指定解除予定
87	刀 無銘 伝備前国長船近景	(所在不明)		昭和32年11月5日
88	太刀 銘宗義造	(所在不明)		昭和51年3月27日

## 県指定重要文化財 [考古資料]

名 称 [出土地または具数]	所在地	所有者又は管理者	指定年月日
1 石枕[天神山古墳出土]	岡山市北区後楽園	岡山県立博物館	昭和54年3月27日
2 袈裟褌文銅鐸[兼基・鳥坂出土]	岡山市北区後楽園	岡山県立博物館	平成3年4月5日
★ 3 宮山墳丘墓竪穴式石室出土品及び特殊器台 [十二点]	岡山市北区後楽園	岡山県立博物館	令和8年3月予定
4 袈裟褌文銅鐸 [安仁神社裏山出土]	岡山市北区後楽園 県立博物館寄託	安仁神社 (岡山市東区西大寺一宮)	平成3年4月5日
5 袈裟褌文銅鐸[神明遺跡出土]	岡山市北区西花尻 岡山県古代吉備文化財センター	岡山県	令和2年3月13日
6 恩原1遺跡・恩原2遺跡出土土器	岡山市北区津島中	岡山大学	令和4年3月11日
7 丸山古墳出土遺物[十四点] 附石棺拓本[一点]	岡山市北区後楽園 県立博物館 倉敷市中央 備前市東片上 備前市歴史民俗資料館 備前市伊部 備前市埋蔵文化財管理センター	岡山県 倉敷考古館 備前市	平成31年3月8日

8 女男岩遺跡出土土付家形土器	倉敷市中央	倉敷考古館	平成29年3月7日
9 西山遺跡出土特殊器台〔二個体〕	倉敷市真備町箭田	倉敷市教育委員会	令和5年3月14日
10 袈裟襷文銅鐸〔勝央町植月北出土〕	津山市山下 津山郷土博物館	津山市	平成3年4月5日
11 柳谷古墳出土遺物〔三十一一点〕	津山市沼 津山弥生の里文化財センター	津山市	平成12年3月28日
12 久米廃寺出土塑像仏及び埴仏〔五〇点〕	津山市山下 津山郷土博物館	津山市	令和2年3月13日
13 「矢田部首人足」銘埴	岡山市北区後楽園 県立博物館寄託	個人 (総社市福井)	平成3年4月5日
14 小枝二号墳出土裝飾付陶棺	赤磐市下市 赤磐市山陽郷土資料館	赤磐市	平成9年3月25日
15 正崎2号墳出土品 (一括)	赤磐市下市 赤磐市山陽郷土資料館	赤磐市	平成25年3月1日
16 金銅装環頭大刀〔大谷一号墳出土〕 附 金銅製品	真庭市下皆部 真庭市北房振興局	真庭市	平成3年4月5日
17 中山遺跡出土特殊壺及び特殊器台〔十一個体〕	真庭市下皆部 真庭市北房振興局 真庭市落合垂水 落合総合センター	真庭市	平成26年3月4日
18 月の輪古墳出土品 (一括)	美咲町飯岡 月の輪収蔵庫	美咲町	昭和59年4月10日

## 県指定重要文化財〔建造物〕

名 称	員 数	所在地	所有者又は管理者	指定年月日
1 今村宮本殿		岡山市北区今	今村宮	昭和30年3月18日
2 安住院多宝塔		岡山市中区国富	安住院	昭和31年4月1日
3 安住院仁王門		岡山市中区国富	安住院	昭和31年4月1日
4 安住院本堂 附 慶長六年棟札		岡山市中区国富	安住院	平成30年3月6日
5 玉井宮東照宮本殿 附 玉垣		岡山市中区東山	玉井宮東照宮	平成12年3月28日
6 金山寺護摩堂		岡山市北区金山寺	金山寺	昭和31年4月1日
7 金山寺三重塔		岡山市北区金山寺	金山寺	平成4年4月3日
8 旧足守藩侍屋敷遺構〔三棟〕		岡山市北区足守	岡山市	昭和31年4月1日
9 大光寺霊廟		岡山市北区上足守	大光寺	昭和52年4月8日
10 池田忠継廟 附 棟札〔三枚〕、守護札〔四枚〕		岡山市南区浦安本町	清泰院	昭和34年1月13日 (追加指定 昭和54年3月27日)
11 吉備津彦神社本殿		岡山市北区一宮	吉備津彦神社	昭和43年4月19日
★ 12 吉備津彦神社渡殿・釣殿・祭文殿・軒廊・拝殿・神饌所〔6棟〕 附 設計図〔二十三枚〕、棟札〔二枚〕		岡山市北区一宮	吉備津彦神社	令和7年3月18日(追加指定 令和8年3月予定)
13 吉備津神社回廊		岡山市北区吉備津	吉備津神社	昭和51年3月27日
14 日応寺番神堂		岡山市北区日応寺	日応寺	昭和54年5月18日
15 西大寺三重塔		岡山市東区西大寺中	西大寺	平成3年4月5日
16 大光院の康永四年法華題目石		岡山市中区円山	大光院	昭和30年7月19日
17 石造宝塔		岡山市東区吉井	地区	昭和34年3月27日
18 松山長昌寺地藏石仏		岡山市北区大安寺地藏下	地区	昭和39年5月6日
19 石造鳥居		岡山市東区穴甘	往来神社	平成2年4月3日
20 石造七重層塔		岡山市東区西大寺中	西大寺	平成2年4月3日
21 石造地藏菩薩立像		岡山市北区建部町富沢	地区	平成6年4月5日
22 児島湾開墾第一区の樋門群		岡山市南区灘崎町西高崎・西紅陽台	高崎土地改良区・岡山県	平成20年3月7日
23 如法寺無量寿院本堂 附 明和五年棟札〔一枚〕		岡山市東区広谷	無量寿院	平成26年3月4日
24 蓮台寺客殿 附 釣屋、御成門、浴室、手洗所		倉敷市児島由加	蓮台寺	昭和31年4月1日
25 蓮台寺多宝塔		倉敷市児島由加	蓮台寺	昭和31年4月1日
26 由加神社本殿		倉敷市児島由加	由加神社	昭和36年7月25日
27 熊野神社本殿〔五棟〕		倉敷市林	熊野神社	昭和43年4月19日
28 尊瀧院ほか四カ院三重塔		倉敷市林	尊瀧院ほか	昭和49年5月31日
29 清田八幡神社本殿		倉敷市曾原	清田八幡神社	昭和35年8月23日
30 石造熊野道の延命地藏坐像		倉敷市福江	宝寿院	昭和31年4月1日
31 石造藤戸寺五重塔婆		倉敷市藤戸町藤戸	藤戸寺	昭和33年4月10日
32 石造総願寺跡宝塔		倉敷市児島下之町	倉敷市	昭和33年4月10日
33 石造地藏菩薩立像		倉敷市大島	倉敷市	昭和34年1月13日
34 満願寺宝篋印塔		倉敷市真備町辻田	森泉寺	昭和31年4月1日
35 石造線刻阿弥陀如来坐像		倉敷市真備町尾崎東谷	地区	昭和34年9月15日
★ 36 野崎家別邸迺暇堂主屋・蔵・居宅・有蔭亭・清恬・車夫詰所・車寄・中門・大門門柱〔八棟一対〕		倉敷市児島味野	ナイカイ塩業株式会社	令和8年3月予定
37 鶴山八幡宮拝殿、釣殿及び神供所並びに末社祖禰神社社殿		津山市山北	鶴山八幡宮	昭和31年4月1日
38 徳守神社社殿〔三棟〕		津山市宮脇町	徳守神社	昭和31年4月1日
39 高野神社本殿		津山市二宮	高野神社	昭和58年4月8日
40 妙法寺本堂		津山市西寺町	妙法寺	平成13年3月23日

41	愛染寺鐘樓門及び仁王堂	津山市西寺町	愛染寺	平成18年3月17日
42	石造無縫塔 石造宝篋印塔	津山市加茂町塔中	個人	昭和34年3月27日
43	新野東の宝篋印塔〔二基〕	津山市新野東	地区	昭和51年3月27日
44	本源寺津山藩主森家一門墓〔七基〕 附 参道、石灯籠〔二基〕	津山市小田中	本源寺	平成21年3月10日 (指定名称等変更 平成25年8月7日)
45	泰安寺本堂及び表門 附 寛永二十一年本堂建立棟札、宝暦六年表門修理棟札 各1枚	津山市西寺町	泰安寺	平成25年3月1日
46	旧妹尾銀行林田支店 本館・倉庫・金庫・門及び塀〔三棟一基〕	津山市川崎	津山市	令和6年3月15日
47	石造墓塔	玉野市後閑	地区	昭和34年3月27日
48	秀天橋	玉野市榎ヶ原	玉野市	平成20年3月7日
49	神護寺本堂 附 棟札〔二枚〕	笠岡市甲弩	来迎院	平成13年3月23日
50	菅原神社眼鏡橋 附 眼鏡橋碑	笠岡市吉浜	菅原神社	平成13年3月23日
51	春日神社石鳥居	笠岡市小平井	春日神社	昭和35年8月23日
52	沢津丸の宝塔	笠岡市真鍋島	個人	昭和51年3月27日
53	善福寺釈迦堂 附 棟札〔一枚〕	井原市井原町	善福寺	平成14年3月12日
54	備中国分寺跡建物 庫裏、裏書院、経蔵〔三棟〕	総社市上林	国分寺	昭和49年5月31日
55	岩屋の皇の墓	総社市奥坂	観音院	昭和30年7月19日
56	磨崖仏〔七軀〕	総社市下原	総社市	昭和34年3月27日
57	大覚大僧正題目石	総社市清音輕部	大覚寺	昭和34年1月13日
58	薬師院本堂	高梁市上谷町	薬師院	昭和34年3月27日
59	松連寺本堂天井と船戸	高梁市上谷町	松連寺	昭和34年3月27日
60	恵堂地蔵	高梁市落合町阿部	高梁市	昭和33年4月10日
61	石造宝塔	高梁市巨瀬町	祇園寺	昭和34年3月27日
62	石造遣迎二尊板碑	高梁市有漢町有漢	個人	平成10年3月24日
63	旧吹屋小学校校舎 本館・東校舎・東廊下・西校舎・西廊下〔五棟〕	高梁市成羽町吹屋	高梁市	平成15年3月11日 (追加指定 平成16年3月12日) (名称変更 平成25年3月1日)
64	石造龍泉寺方柱碑	高梁市成羽町下原	龍泉寺	昭和33年4月10日
65	穴門山神社本殿及び拝殿 附 棟札〔六枚〕	高梁市川上町高山市	穴門山神社	昭和52年4月8日 (追加指定 平成7年4月7日) (追加指定 平成19年3月16日)
66	石造方柱碑	高梁市備中町布賀	個人	昭和41年4月27日
67	三尾寺本堂	新見市豊永赤馬	三尾寺	昭和34年4月13日
68	石造宝台寺五輪塔	新見市金谷	宝台寺	昭和33年4月10日
69	石造延命地蔵(朝間地蔵)	新見市正田	地区	昭和34年3月27日
70	石造延命地蔵(昼間地蔵)	新見市正田	地区	昭和34年3月27日
71	石造延命地蔵	新見市唐松	個人	昭和34年3月27日
72	石造延命地蔵菩薩立像(夕間地蔵)	新見市西方	地区	昭和60年4月2日
73	石造延命地蔵菩薩坐像	新見市金谷	青龍寺	昭和60年4月2日
74	六角石幢	新見市神郷下神代	神心寺	昭和34年3月27日
75	石造薬師三尊像	新見市神郷高瀬	地区	昭和40年2月24日
76	荒戸神社本殿	新見市哲多町田淵	荒戸神社	昭和62年4月3日
77	矢田石仏	新見市哲西町矢田	新見市	昭和33年4月10日
78	大瀧山福生寺本堂	備前市大内	大瀧山実相院・福壽院・西法院	平成15年3月11日
79	大瀧山福生寺仁王門 附 元和九年銘施主札〔三枚〕	備前市大内	大瀧山実相院・福壽院・西法院	平成18年3月17日
80	正楽寺山門 附 文化十四年棟札	備前市蕃山	千手院	平成29年3月7日
81	本蓮寺三重塔	瀬戸内市牛窓町牛窓	本蓮寺	昭和55年4月8日
82	本蓮寺祖師堂	瀬戸内市牛窓町牛窓	本蓮寺	昭和57年4月9日
83	弘法寺山門	瀬戸内市牛窓町千手	弘法寺	平成7年4月7日
84	横尾山静円寺本堂	瀬戸内市邑久町本庄	静円寺	昭和31年4月1日
85	静円寺塔婆(多宝塔) 附 棟札	瀬戸内市邑久町本庄	静円寺	昭和35年8月23日
86	餘慶寺三重塔 附 棟札〔四枚〕	瀬戸内市邑久町北島	餘慶寺	平成14年3月12日
87	石造方柱碑	赤磐市中島	千光寺	昭和34年3月27日
88	田原用水水路橋(石の懸樋)	赤磐市徳富	赤磐市	平成5年4月23日
89	石造十三重層塔	赤磐市石蓮寺	地区	昭和34年3月27日
90	宗形神社鳥居	赤磐市是里	宗形神社	平成21年3月10日
91	木山神社本殿	真庭市木山	木山神社	昭和32年11月 5日
92	宇南寺本堂	真庭市美甘	宇南寺	昭和34年1月13日
93	吉森の石造五輪塔〔二基〕	真庭市蒜山上長田	個人	昭和59年4月10日
94	石造宝篋印塔	美作市沢田	個人	昭和34年3月27日
95	石造宝篋印塔	美作市粟野	個人	昭和34年3月27日
96	安蘇の宝篋印塔	美作市安蘇	地区	昭和52年4月8日
97	天石門別神社本殿	美作市滝宮	天石門別神社	平成10年3月24日
98	旧高戸家住宅	浅口市鴨方町鴨方	浅口市	平成10年3月24日

99	石造地藏菩薩立像（ゆるぎ堂所在）	浅口市鴨方町本庄	地区	平成10年3月24日
100	石造密巖寺五重層塔	和気町佐伯	本久寺	昭和33年4月10日
101	石造密巖寺九重層塔	和気町佐伯	本久寺	昭和33年4月10日
102	石造五輪塔	和気町田土	長楽寺	昭和34年3月27日
103	本久寺本堂	和気町佐伯	本久寺	昭和34年1月13日
104	福武家住宅主屋・長屋門〔二棟〕	矢掛町横谷	個人	平成16年3月12日
105	石造地藏菩薩立像（吉田の油地藏）	勝央町東吉田	東光寺	昭和34年1月13日
106	石造無縫塔	奈義町小坂	地区	平成16年3月12日
107	佛教寺鎮守社本殿 附 天保六年棟札	久米南町仏教寺	佛教寺	平成19年3月16日
108	慈眼庵址宝篋印塔	久米南町峠	個人	昭和30年3月18日
109	石造宝篋印塔	久米南町里方	誕生寺	昭和34年3月27日
110	石造五輪塔	久米南町里方	誕生寺	昭和34年3月27日
111	石造宝篋印塔	久米南町仏教寺	佛教寺	昭和34年3月27日
112	石造五智如来坐像〔五軀〕	美咲町両山寺	両山寺	昭和40年6月16日
113	本山寺常行堂	美咲町定宗	本山寺	昭和34年3月27日
114	本山寺靈廟〔四棟〕	美咲町定宗	本山寺	昭和34年3月27日
115	本山寺長屋	美咲町定宗	本山寺	昭和34年3月27日
116	本山寺仁王門	美咲町定宗	本山寺	昭和34年3月27日
117	石造宝篋印塔	美咲町定宗	本山寺	昭和34年3月27日
118	石造六角型舍利塔	美咲町定宗	本山寺	平成4年4月3日
119	本経寺本堂 附 棟札	美咲町吉ヶ原	本経寺	昭和37年4月3日
120	妙本寺本堂	吉備中央町北	妙本寺	昭和31年4月1日
121	吉川八幡宮随神門	吉備中央町吉川	吉川八幡宮	昭和59年4月10日
122	吉川八幡宮拝殿 附 元治元年銘棟札	吉備中央町吉川	吉川八幡宮	平成12年3月28日
123	総社石灯籠	吉備中央町加茂市場	総社宮	昭和33年4月10日
124	石造地藏菩薩立像	吉備中央町加茂市場	総社宮	昭和34年1月13日
125	石造宝篋印塔	吉備中央町円城	円城寺	昭和34年3月27日
126	清水寺 平清盛供養塔	吉備中央町湯山	清水寺	昭和30年7月19日

## 県指定記念物〔名勝〕

名 称	所在地	所有者又は管理者	指定年月日
1 近水園	岡山市北区足守	岡山市	昭和34年3月27日
★ 2 妙教寺庭園	岡山市北区高松稲荷	(宗)最上稲荷山妙教寺	令和8年3月予定
3 円通寺公園	倉敷市玉島柏島	円通寺	昭和34年 3月27日 (追加指定 平成23年3月4日)
4 道祖溪	井原市西江原町	井原市	昭和30年7月19日
5 天神峡	井原市芳井町吉井	井原市	昭和31年4月1日
6 弥高山	高梁市川上町高山	高梁市	昭和32年5月13日
7 夫婦岩	高梁市成羽町布寄	国司神社	令和7年3月18日
8 大通寺庭園	矢掛町小林	大通寺	平成13年3月23日
9 龍城院庭園	浅口市寄島町	龍城院	令和7年3月18日

## 県指定重要無形文化財

部 門 (種別・名称)	生年月日	指定・認定年月日	
1 木 工 芸	森田 二一(翠玉)	大15. 12. 11	平成7年4月7日
木 工 芸	小椋 芳之	昭22. 9. 27	平成23年3月4日
★ 木 工 芸	川野 正毅	昭16. 9. 25	令和8年3月予定
2 備前焼製作技術	松井 與之	昭6. 8. 12	平成8年7月30日
備前焼製作技術	山本 雄一	昭10. 10. 9	平成8年7月30日
備前焼製作技術	森 才蔵(陶岳)	昭12. 3. 23	平成8年7月30日
備前焼製作技術	吉本 正志(正)	昭18. 11. 10	平成19年3月16日
備前焼製作技術	金重 晃介	昭18. 12. 23	平成24年3月9日
備前焼製作技術	山本 出	昭19. 4. 2	平成24年3月9日
備前焼製作技術	金重 有邦	昭25. 7. 10	平成31年3月8日
備前焼製作技術	島村 光	昭17. 9. 9	平成31年3月8日
備前焼製作技術	隠崎 隆一	昭25. 8. 3	平成31年3月8日
3 刀剣製作技術	安藤 幸夫(広清)	昭22. 2. 4	平成9年3月25日
4 虫明焼製作技術	黒井 完治(千左)	昭20. 3. 30	平成23年3月4日
5 神伝流古式泳法	(財)神伝流津山 游泳会		平成25年3月1日
★ 6 漆芸(描蒔醬)	塩津 容子	昭22. 4. 26	令和8年3月予定

★指定・認定・追加指定

※指定解除

【指定・認定】

1 野崎家別邸迨暇堂

**野崎武吉郎**（のざきぶきちろう 1848～1925）：野崎家は江戸時代中期頃には一町以上の田畑を経営する富裕農民層で、武吉郎の祖父武左衛門が文政10（1827）年に塩田経営に着手し、成功を収めた。野崎の名は、武左衛門が開発した塩田の地名、味野村と赤崎村から付けられている。武吉郎は元治2（1865）年に家督を継ぎ、塩田・耕地経営の発展と安定に努めると共に、味野小学校新築や下水道敷設、堤防補修などの事業にも寄付するなど、地域の発展に尽力した。野崎家は現在もナイカグループの大株主として塩業を中心とした事業に携わっている。

**破風**（はふ）：屋根の妻側に設けられた厚板、またはその部分。

**式台**（しきだい）：土間と一段高い床の間に設けられた板敷き部分。武家屋敷に始まるが、地主や豪商層などにも広まり、近世の社会的地位の象徴の一つとなった。

**キングポスト トラス**：トラスとは三角形を組み合わせて作る構造体で、キングポストは三角形頂点から真束（しんづか）と呼ばれる垂直の支柱を入れ、下弦材となる梁を引き上げることによって、大きな梁間を実現できる。

明治時代以降、西洋建築技術の流入と共に日本に取り入れられた。もとは橋の技術であったが、次第に官公庁舎から民間の建物に用いられるようになった。

**海鼠壁**（なまこかべ）：土蔵造りの建物外壁の仕上げの一つ。方形の平瓦を貼り、瓦の目地に半円形（なまこ形）に漆喰を盛り上げたもの。江戸時代の武家屋敷の長屋や長屋門の壁に始まり、後に民家の土蔵などにも用いられるようになった。

**数寄屋造**（すきやづくり）：自然を活かした質素かつ洗練された意匠が特徴。竹や杉皮、土壁など自然素材を取り入れた和風建築。

2 宮山墳丘墓竪穴式石室出土品及び特殊器台

**墳丘墓**（ふんきゅうぼ）：土や石を積み上げて丘状にした墓で、弥生時代では墳丘墓、古墳時代では古墳と呼ぶ。弥生時代に有力者の墓として出現し、古墳へと発展した。古墳は斉一性が強いが、墳丘墓は地域色が濃厚で、形も様々である。県下で弥生時代最大の墳丘墓は倉敷市楯築遺跡（2世紀後半、推定全長80m）である。

**特殊器台**：供物を載せて捧げる器台から吉備独自に発達した土器で、埴輪の原型と考えられている。弥生時代の終わり頃（2世紀）から古墳時代初頭（3世紀）に、主に葬送の祭りに使われたと考えられている。本来は壺形の特殊壺とセットで用いられる。吉備南部を中心に分布するが、出雲や大和など他地域からも少数出土しており、吉備と密接な関係があったことを示すものとして注目されている。

県下ではこれまでに80例確認され、倉敷市西山遺跡（令和5年3月指定）と真庭市中山遺跡（平成26年3月）出土の特殊器台を県の重要文化財に指定している。

**箸墓古墳**：奈良県桜井市箸中に所在する全長約280mの前方後円墳。埋葬施設や内部構造は不明だが、墳丘等の出土品から3世紀中頃から後半に築造されたと考えられてい

る。卑弥呼や卑弥呼の後継者壺与（台与）の墓とする説もあるが確証はない。

### 3 妙教寺庭園

**池泉座観式（ちせんざかんしき）**：建物の中から座って鑑賞することを前提に設計された、池のある日本庭園の形式。園内を歩いて見て鑑賞する形式は、回遊式庭園と呼ばれる。

**蹲踞（つくばい）**：茶室に入る前に客人が手や口を清めるため、露地（茶室の庭）に設置される。柄杓を置く「前石」、手燭を置く「手燭石」、湯桶を置く「湯桶石」などから構成される。庭園の添景物としても親しまれている。

**亀頭石（きとうせき）**：蓬莱思想に基づき、長寿の願いを込めて亀の頭に見立てて配置される石。

**礼拝石（らいはいせき）**：主に寺院の庭園や仏堂正面で、本尊や神仏を拝むために設置された大形の平石。

### 4 漆芸（描蒔醬） 塩津容子

**難波仁斎（なんばじんさい 1903～1976）**：岡山市に生まれ、岡山工芸高校を卒業後、京都の友禅の凶案書きに従事する。昭和2（1927）年に帰郷し、母校の教鞭を執りながら作品作りに打ち込み、描蒔醬技法を考案した。

**備中漆（びっちゅううるし）**：岡山県備中地方で古くから生産されてきた、透明度と光沢に優れた最高品質の天然漆。京都の東寺に伝えられた中世の古文書「東寺百合文書（とうじひやくごうもんじょ）」の中には、東寺の荘園であった新見庄から納められた漆についての記載がある。

### 5 木工芸 川野正毅

**森田翠玉（もりたすいぎょく）**：大正15（1926）年、新見市に生まれる。平成7（1995）年に岡山県指定重要無形文化財木工芸保持者に認定された。平成19（2007）年文部科学大臣表彰（地方文化）など受賞多数。

#### 【追加指定】

#### 1 吉備津彦神社 棟札

**附（つきたり）**：重要文化財などの指定において、それと一体を成す関連する物品や資料等を併せて文化財指定する仕組み。本体の価値や歴史的背景を証明する重要な資料等で、本体と一体として保護される。

**棟札（むなふだ）**：建造物の建築や修理の際、その建物の繁栄や安全祈願のため、内部の棟や梁など屋根裏の高い場所に取り付けられる。施主や大工棟梁、建築（修理）年月日などが記され、建物の歴史を証明する歴史的資料となることもある。

**角南隆（すなみたかし）**：倉敷市児島出身の建築家。内務省技師として大正後期から昭和初期にかけて、奈良県吉野神宮や橿原神宮など、多くの神社の整備に携わった。